

2022年静岡ユース GK レポート

(ヤングサッカーフェスティバル・SBS カップ国際ユースサッカー)

【報告者】 静岡ユース GK コーチ 阿部宏紀 (清水桜が丘高校・FC 桜が丘 GK コーチ)

静岡ユース担当役割：ゴールキーパー・セットプレー守備

< 2022 静岡ユース戦績 >

○ヤングサッカーフェスティバル (草薙陸上)

静岡ユース 1 - 2 日本高校選抜

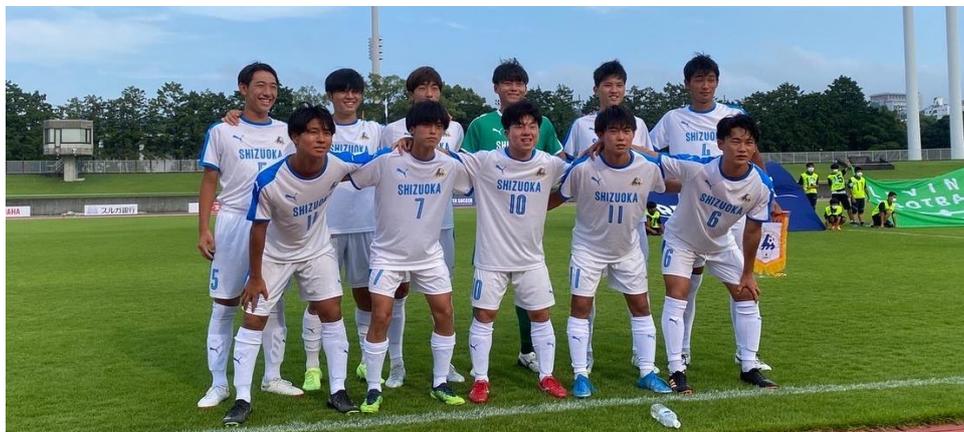


○SBS カップ 大会 2 位

静岡ユース 3 - 3 (PK 3 - 4) ウズベキスタン代表 (藤枝総合)

静岡ユース 1 - 1 (PK 4 - 3) 日本代表 (草薙陸上)

静岡ユース 3 - 0 ウルグアイ代表 (エコパスタジアム)



○失点 4 試合 (3 2 0 分) 6 失点 (平均失点 1.5)

<大会活動日数・GK内容>

○ヤングサッカー 2日間

- ・3月4日（前日練習）

練習前 GK ミーティング（顔合わせ、価値観の共有）

GK トレーニング（キャッチ+ステップ、ポジショニング確認、クロス対応）

セットプレー守備確認（チーム全体）

宿舎 GK ミーティング（GK コンセプト確認・GK プレーモデル確認）

- ・3月5日（ヤングサッカー当日）

W-UP、試合前セットプレー確認、試合、選手と振り返り



○SBS カップ 7日間

- ・8月17日（練習）W-UPの意図共有
- ・8月23日（練習）キャッチング・ポジショニング・クロス対応確認
- ・8月24日（練習）ポジショニング・クロス対応確認・セットプレー守備：チーム全体
- ・8月25日（大会初日）W-UP、試合前セットプレー確認、試合
- ・8月26日（大会2日目）W-UP、試合前セットプレー確認、試合
- ・8月27日（練習）練習前 GK ミーティング（2試合振り返り）、クロス対応確認
- ・8月26日（大会3日目）W-UP、試合前セットプレー確認、試合、振り返り

<GK 分析>

○ヤングサッカー・SBSカップ招集 GK

1 森脇真一（ジュビロ磐田 U-18） 身長 186 cm 体重 76 kg

リーダーシップがあり、チームにピッチ内外で影響力がある GK であった。
静岡ユースでは主に先発で出場することが多く、ビルドアップ参加でチームに安定感をもたらしていた。（SBS カップ）

12 石坂地央（藤枝東） 身長 182 cm 体重 73 kg

身体能力が高く、ハイボールやシュートセーブでチームを助ける GK で、今大会では U18 日本代表戦で PK 2 本セーブするなど、チームに貢献してくれた。（SBS カップ）

（失点） ●ペナルティーエリア内 3 失点 ●直接 FK・1 対 1・クロス 各 1 失点

○対戦相手 GK の分析

・日本高校選抜

1 佐藤瑠星（大津） 191 cm

ゴール前でのプレー回数は多くはなかったが、ミドルシュートやクロス対応に安定して対応していた。また後半のハイボールでは、コンタクトがあった後もすぐに修正してキャッチしていたので、セカンドチャンスを作らせてもらえなかった。

23 鮎澤太陽（尚志） 178 cm

出場時間は 20 分ほどで、2-0 での出場だった。ポジションが低めで、DF の背後やクロス時に GK と DF の間が広く見えた。このことが要因か分からないが、静岡ユースはクロスから得点した。

・ウズベキスタン代表 12 ケンジャエフ アスロルベク 183cm

身長が大きい方ではないが、アジリティ能力は高い印象を受けた。この大会の中では1番短距離の爆発力があつたと思う。またPK戦を2勝（静岡ユース、日本代表）していて、キッカーが蹴る直前まで活発に動いて駆け引きをして圧力を与えていたのはピッチレベルで感じた。

・日本代表 1 栗林颯（サガン鳥栖 U-18） 182cm

ビルドアップ能力が高く、DFラインと協力して圧力がかった時でも、冷静に空いている味方にパスを通していた。アディショナルタイムの唯一のパスミスが失点に繋がってしまった。日本代表がボールを保持する時間が長いと、GKがゴール守る仕事の頻度が少なくなる。

・ウルグアイ代表 1 ファクンド マチャード 186cm

手足が長くGKには適した体格あつた。横に移動できる範囲が長く止めるのが長所のGKではないかと思う。静岡ユース戦では3失点しましたが、オウンゴールやマイナスクロス、フリーな1対1と難しい場面であつたが、ポテンシャルはあるGKだと思う。

<セットプレー守備>

ヤングサッカーでも、SBSカップでも前日にセットプレーを行った。SBSではセットプレー原則と約束事を紙に書いて、常にミーティング会場・ロッカールームに貼り、視界に入るように工夫した。

（セットプレー原則） ①掴む ②先に触る ③越えた後 ④ファーストディフェンス

静岡ユースは4試合行い、ウズベキスタン代表戦で直接フリーキックから1失点したが、4試合を通じて外からゴール前に入れられたセットプレー（CK・FK）で失点をする事は無かった。この成果は選手がセットプレー原則と約束事・配置を守ってくれた成果であり、静岡ユースの選手達には感謝している。

（4試合セットプレー合計） コーナーキック 27回 フリーキック 19回

<感想>

今年で静岡ユースでの活動が3年目となりましたが、過去2年はコロナ過で SBS カップドリームサッカー大会（国内大会）のみの開催でした。私自身は今年初めてのヤングサッカーフェスティバルと SBS カップ国際ユースサッカーを経験しました。今年の静岡ユースはコロナ過で活動日数が少なく、ヤングサッカー、SBS カップともに選考会も行うことができませんでした。そのため、チーム立ち上げ当初は2021年度から出場機会があるGKをピックアップしていき、映像等で確認を行いメンバーを選考していきました。

ヤングサッカーを終えてからは、SBS カップに向けて試合や練習の現地視察も行い、選手のピックアップを続けていきました。1月と3月には静岡高体連選抜合宿が行われ、例年よりも多くのGKと共に練習や試合を行うことが出来ました。また私自身もプリンスリーグ東海のチームに所属しているので、ヤングサッカー・高体連選抜GKをプリンスリーグ東海の試合でGKの経過を細かく見る事が出来ました。プリンスリーグ以外の県総体とプレミアリーグは映像と現地視察を行いました。データ収集として、毎試合プリンス・プレミアリーグ公式記録を見て、出場時間と失点数を記録するなど、色んな視点からデータを集め、様々な視点からGKを選考しました。

このレポートを読んで、疑問に思うこと、深堀してみたいことがあれば、是非声をかけてください。情報を共有して、様々なディスカッション行えたら嬉しいです。このような積み重ねが静岡GKの向上に繋がると信じてます。

2022年の静岡ユースに関わっていただいた関係者の皆様、大会関係者の皆様、このような機会を作ってください、ありがとうございます。

